

ソフトピアジャパンの中小企業等への DX支援の取り組み

— 地域未来に向けた3つのアプローチ —

公益財団法人ソフトピアジャパン

理事長 松島 桂樹

公益財団法人ソフトピアジャパン

1994年に設立。「暮らしよい岐阜県」の実現を目指すため、ソフトピアジャパンエリアを県内産業の生産性の向上、高度化の拠点とし、IT・IoT導入・活用による地域産業の持続的発展と地域の特徴を活かすIT技術の創出を促進します。



「中部のIT拠点」

「ITビジネスネットワーク拠点」 として発展させます。

ソフトピアジャパンプロジェクト【経緯】

1988年

岐阜県ソフトピアジャパン構想
調査報告書

(岐阜県大垣ソフトパーク建設基本構想)

1990年

「ソフトピアジャパン
マスタープラン」策定

■エリアの計画

・街づくり ・環境 ・センタービル 他



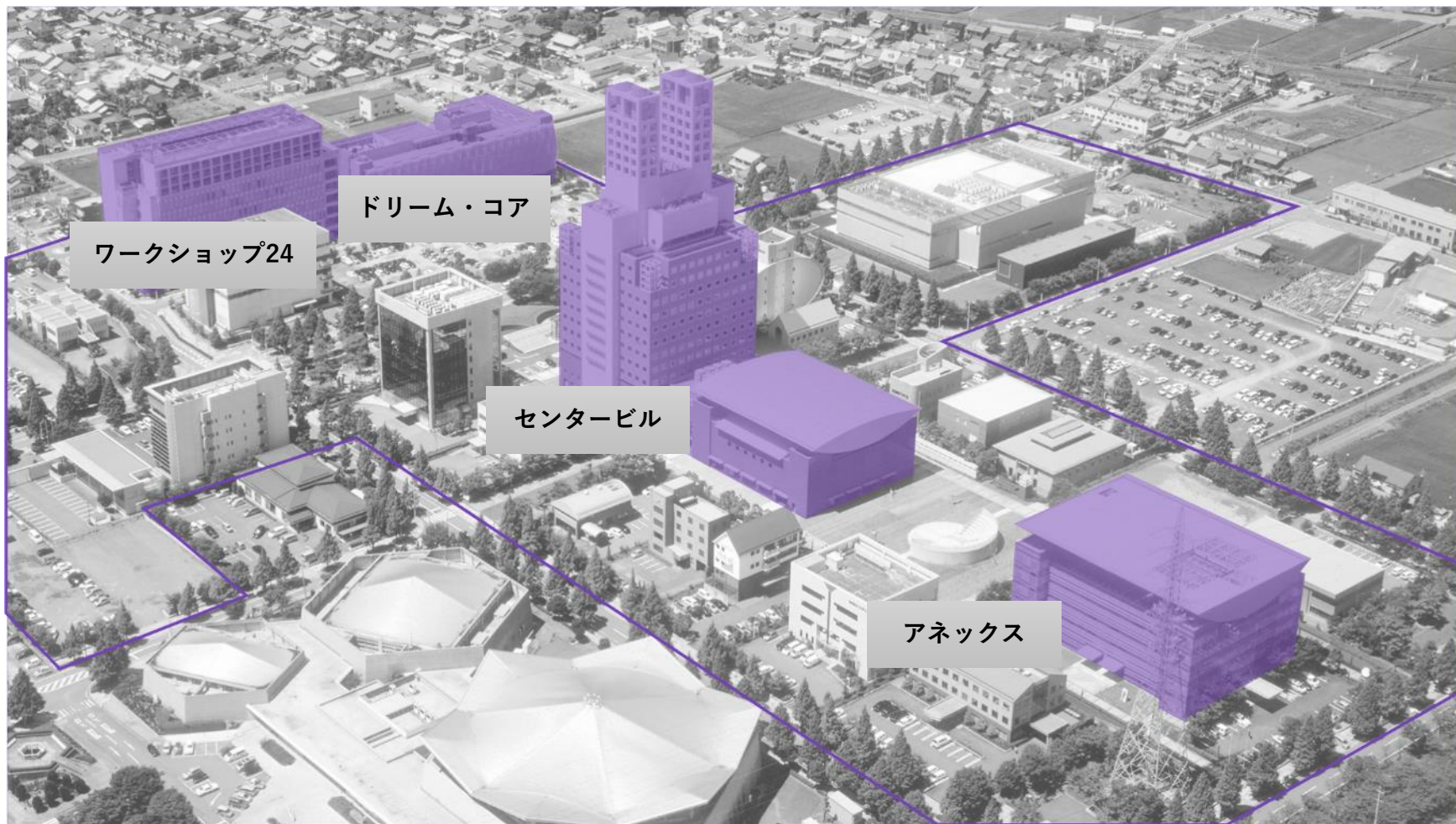
1994年

財団法人ソフトピアジャパン設立

1996年

センタービル完成

ソフトピアジャパン エリア



総面積 12万m² (3万 6 千坪、およそ東京ドーム3つ分)

公益財団法人ソフトピアジャパンの役割の変化



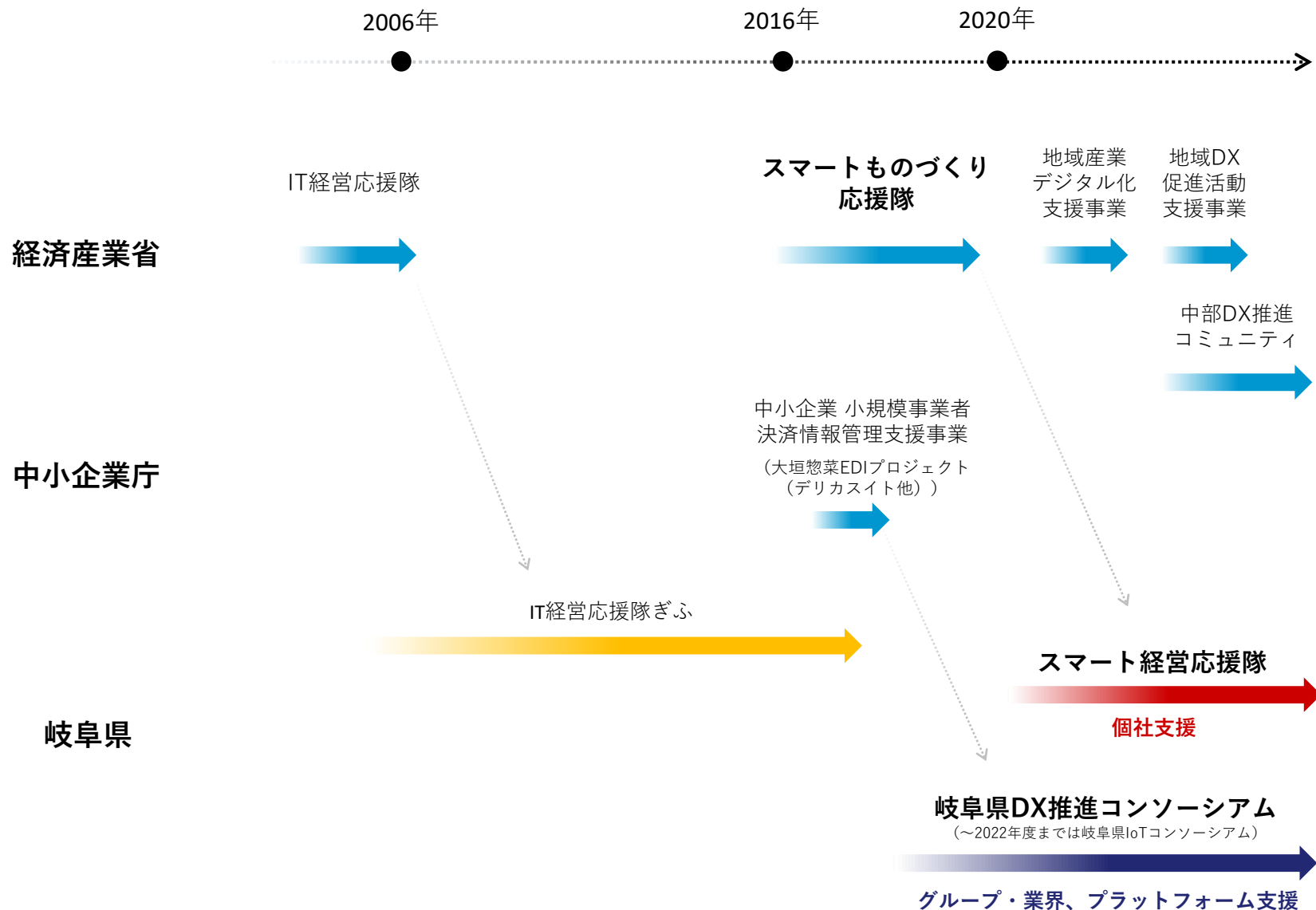
☑ 専門家中心→職員主体

☑ テーマ別の支援

☑ 中長期的、体質改善

☑ 伴走型DX支援

ソフトウェアジャパンによる中小企業支援の変遷



令和5年度 公益財団法人ソフトピアジャパン 事業概要

産業の高度化

スマート生産性向上推進事業

- ・ 職員による現場訪問・相談対応、専門家の派遣
- ・ アドバイザーのフォローアップ事業

DX推進コンソーシアム事業

- ・ セミナー開催、先進事例調査
- ・ WS、研究会・交流事業等による連携促進
- ・ WGによる実証・共同開発事業への助成

スマート経営実践支援事業

- ・ 中小・小規模事業者等に対するDX推進に向けたデジタル機器等の導入補助

ソフトピアジャパン企業支援事業

- ・ 人材確保支援（IT業界研究）
- ・ 展示会共同出展等

デジタル化推進事業

- ・ 財団内の業務フローを見直し、全体最適化を目指したデジタル化を推進

人材の育成

産業人材育成事業

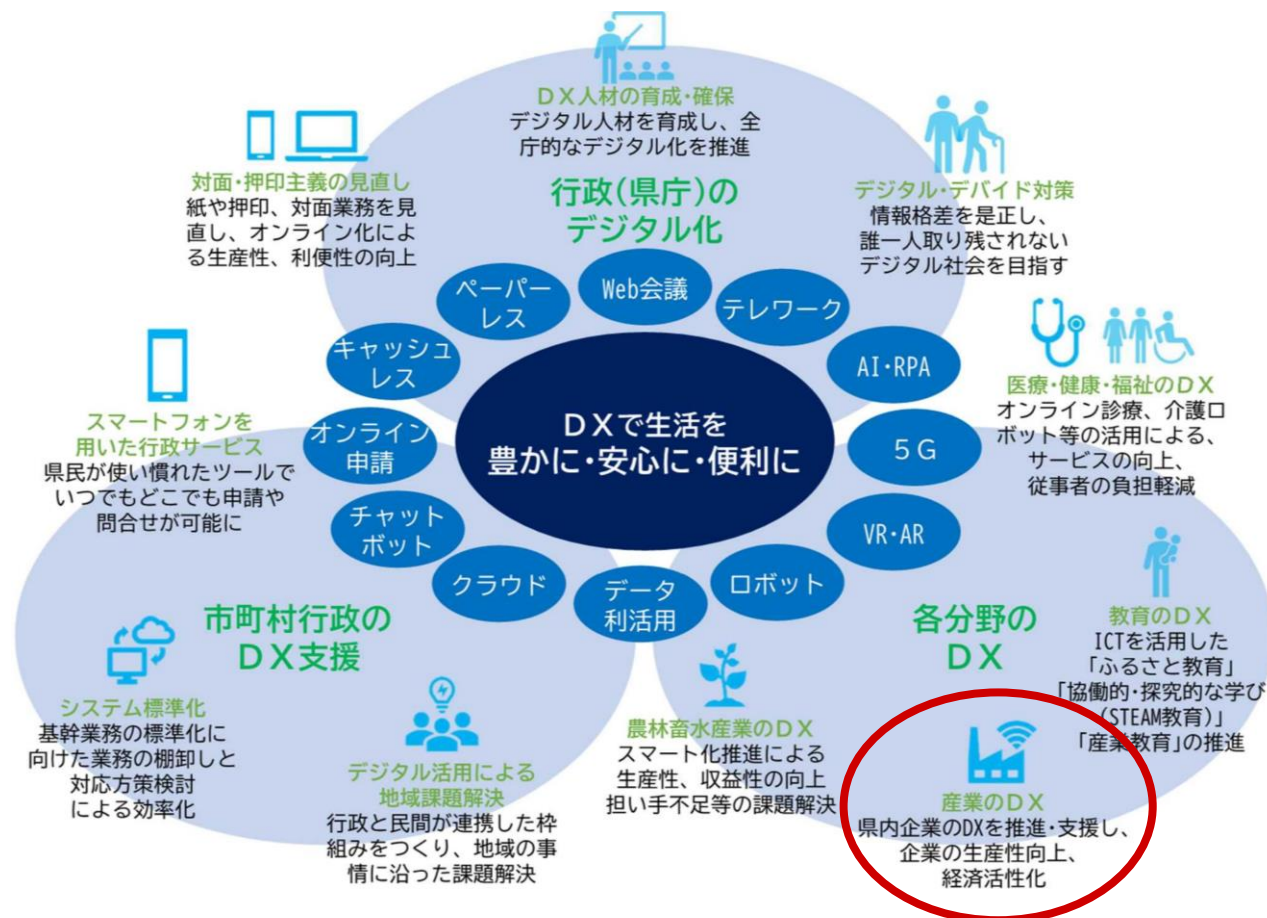
- ・ DX・IT人材育成研修
- ・ オーダーメイド実践研修
- ・ 次世代人材育成
- ・ DX推進に向けたリスキリング研修
- ・ 大学生等のデジタル人材育成

新事業の創出支援

オープンイノベーション創出拠点事業

- ・ Fab-core運営事業
- ・ イノベーションを促進するセミナー等の開催

岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画の概要図



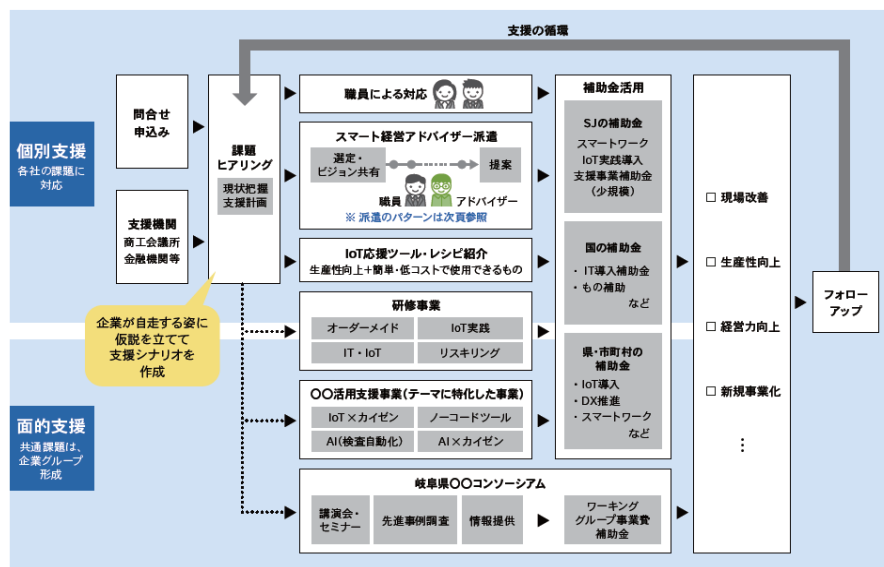
- ✓ 企業の規模や業態に応じて、デジタル技術を活かした製品・サービス等の付加価値向上や業務、製造プロセスの効率化といったビジネス変革を実現
- ✓ ソフトピアジャパン等との一体的な支援により、県内産業のDXを推進

ソフトピアジャパンによるDX支援の流れ

相談受付
ニーズ調査

課題解決に向けた
アドバイス・提案

解決策を実施
3つのアプローチ



1. 個社支援
伴走型による中小企業へのDX支援

2. 面的支援
グループや業界に対するDX支援

3. プラットフォーム構築・活用支援
産・金・官によるDX支援

DX推進を応援する対象企業

岐阜県内の中小企業等を様々なアプローチで戦略的に支援

中堅企業
(地域未来牽引企業等)

- デジタル化の基盤があるため、DX推進のきっかけや加速につながる情報提供・交換

中小企業

- 経営者の内発的動機や意識に訴える「伴走型支援」による仕組みを構築し対応

小規模企業

- インボイスなど制度的な変化に備え、経営者に負担がかからないツール等の紹介
- 商工会・商工会議所等との連携による対応

3. プラットフォーム構築・活用支援

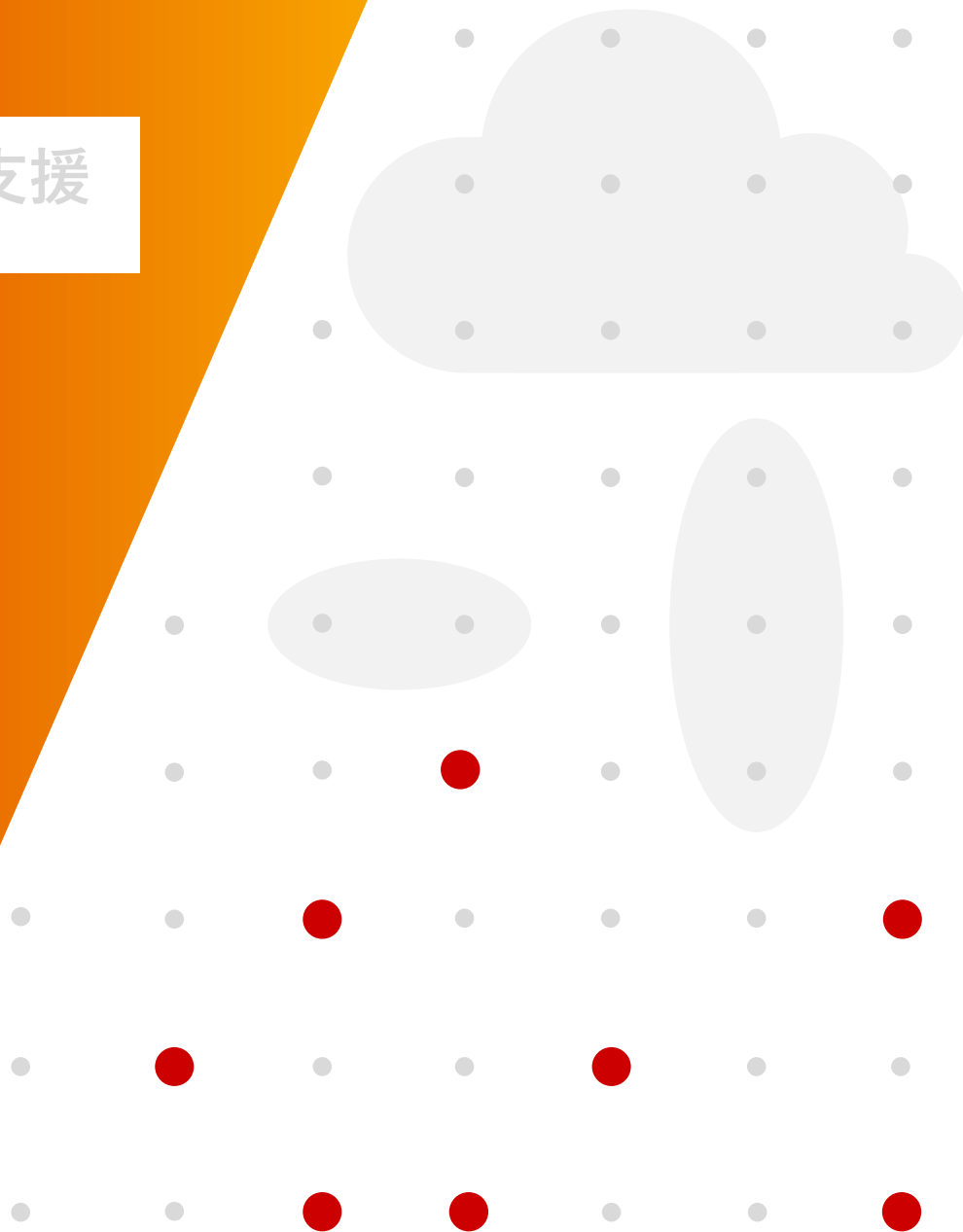
■ 産・金・官によるDX支援

2. 面的支援

■ グループや業界に対するDX支援

1. 個社支援

■ 伴走型による中小企業へのDX支援



1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

専門家と職員による「スマート経営応援隊」

SOFTOPIA JAPAN 公益財団法人ソフトピアジャパン 専門家派遣事業

高度な
スマート経営に向けた簡易的な診断から始められます！

IT・IoT 活用で、経営力を高め、未来につながる『DXの推進』を応援します！

例えば、製造業の
データを活用した現場カイゼン

例えば、お店の
在庫管理などバックオフィス効率化

例えば、工場への
IoTツール導入・設備稼働の見える化

例えば、事務所の
デジタル化・スマート経営の推進

Q. 岐阜県内に事業所を有する皆様、こんなお悩みはありませんか？

- ✓ 工場・現場の「〇〇〇」を見える化したい
(機械の稼働状況、生産の進捗状況、在庫...など)
- ✓ データの分析・活用により業務の効率化を図りたい
- ✓ 手書き帳票をデジタル化して、生産や営業の実績をリアルタイムに共有したい
- ✓ 人手不足や作業者の高齢化対策として、省人化・自動化に取り組みたい
- ✓ 長年の経験と勘に頼っている計画を見直したい
- ✓ IoT・AIを導入して、DXを推進したいが...
何から手をつければ？誰に相談すれば？費用対効果は？

スマート経営応援隊 専門家と財団職員が、解決まで伴走します！



● ソフトピアジャパン職員によるヒアリング等

無償
IoTツール・導入事例の紹介、派遣に向けた打ち合わせなど

● スマート経営アドバイザーの派遣

有償：費用 1.1 万円(税込)※ / 1 人 1 回
※ 相談企業のご負担

お手伝いできること・課題の例

- ・ スマート経営に向けた簡易的な診断
- ・ データの分析・活用、社内共有
- ・ IoT・AI活用による生産性向上・経営力強化
- ・ ノーコードツールなどを活用したペーパーレス・業務効率化
- ・ 社内人材のリスクリングを通じたDXの推進
- ・ 販売・在庫・顧客管理のデジタル化によるスマート経営の推進

「スマート経営アドバイザー」派遣の流れ



利用者の声 専門家派遣事業ほか、ソフトピアジャパン (SJ) DX推進事業について



東和組立 株式会社
取締役社長
林 佳寿彦 様
※ 自動車部品製造 (美濃加茂市)

「気づきと刺激を受けながら活動し、中部IT経営力大賞2020 優秀賞受賞！」

セミナーや岐阜県IoTコンソーシアムにトップ自ら積極的に参加し、新しい視座・視点を得て改善に着手。社内では、「身の丈IoT技術」を実践、階級による女性化・外国籍など「ダイバーシティ経営」に取り組んでいます。

CASE 01



有閑食社 花村製菓所
代表取締役
花村 裕次 様
※ 水栓 / リップ製造 (山県市)

IoTデータによるカイゼンで、設備稼働率などが向上！

地元3社のグループでIoT導入とカイゼン活動に取り組みました。目標を立て、データで効果と変化を実感できるので、社員の意識が高まりました。

※ SJ「IoT×カイゼンによる生産性向上支援事業」に参加。

CASE 02



株式会社 藤崎
定款課 課長
林 零音 様
※ 板金・塗装 (各務原市)

「大型塗装ラインを見える化！改善意識と稼働時間がアップ」

ゼロから作り上げたIoTシステムにより停止場所・復旧時間等が同時に共有でき、生産性が向上。さらに、稼働時間や停止理由等を蓄積、改善に役立っています。

※ 「岐阜県IoT導入促進補助金」を活用して実現。

CASE 03



株式会社 ツツダ
代表取締役
塚田 浩生 様
※ プレス加工 (関市)

研修で習得したスキルで、工場の全設備をIoT化！

IoT機器の制作から、見える化まで丁寧に教えていただきました。その後も支援をいただく中で、全体の見える化・データ蓄積が進み、効果を実感しています。

※ SJ「IoT実践研修」受講後、専門家の派遣事業を活用。

CASE 04

お問い合わせ

公益財団法人 ソフトピアジャパン DX推進課 デジタル経営推進室

〒503-8569 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地7

TEL : 0584-77-1166

E-mail : smart@softopia.or.jp

Web : https://www.softopia.or.jp/smart-keiei/

オンラインでも相談・助言等実施しています！

スマート経営応援隊

検索

1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

スマートものづくり応援隊

岐阜県の特徴を生かした独自のカリキュラム、企業支援のアプローチ

指導者育成スクール

生産技術に
秀でた企業OB

+

IoT・ロボット
導入ノウハウ

IT・ロボット等に
知見ある人材

+

業務プロセス分析・
現場改善ノウハウ

現場派遣事業

企業での改善活動

IoT・ロボット導入支援

業務分析・全体最適提案

スマートものづくり応援隊
拠点一覧（平成31年度版）

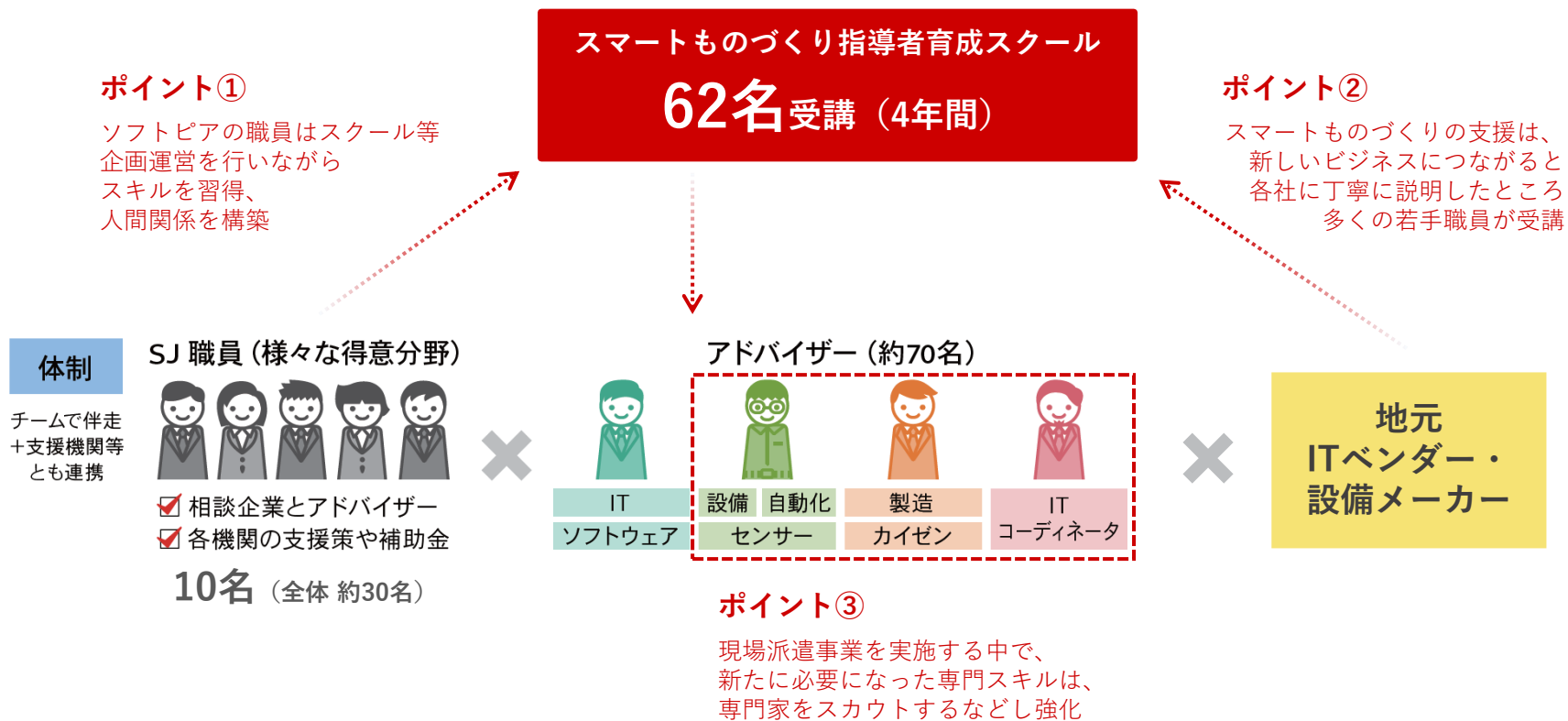
31拠点

出典：『スマートものづくり応援隊について』（広島県）
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attach>



1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

伴走型DX支援の体制



1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

伴走型DX支援の特徴

① SJ職員が積極的に関与

SJ 職員が主体的に取り組み、専門家や他の支援機関と連携をしながら、全ての段階において積極的に関与。



② SJ職員が専門性を発揮

SJ 職員は、IT・IoTなどのデジタル技術、コーディネートなどそれぞれの専門性を発揮し、課題解決に貢献。



③ あらゆる段階に対応可能

専門家（令和4年度時点 約70名登録）は、ソフトウェア、IoTシステム、設備、センサーなど技術系から、改善コンサル、ITコーディネータまで幅広く、データ収集、見える化、活用・分析、改善・変革といったあらゆる段階に対応可能。

④ 現役のノウハウを活用

専門家の中には一線で活躍するIT企業等の現役の経営者・従業員も含まれ、効果的な提案と導入につながるケースが多い。



⑤ 複数年に渡る支援

補助金の申請や、導入後のシステム活用・現場改善・経営支援にも関与するため、複数年度にまたがるケースが多い。



⑥ DXの地産地消を推進

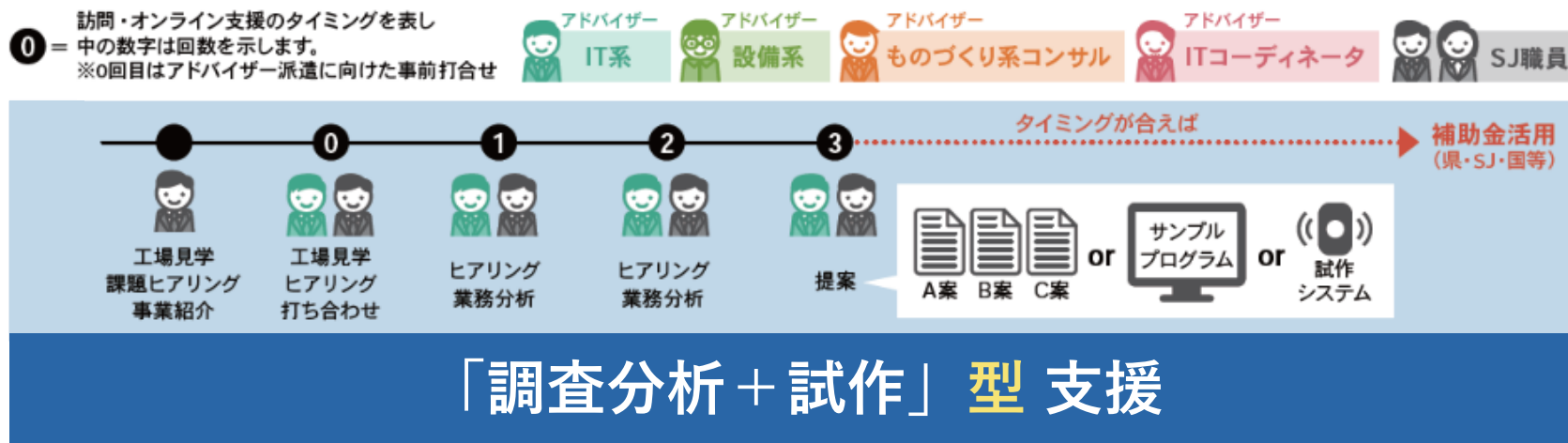
SJ エリアをはじめ、岐阜県内の IT 企業とともに課題解決に取り組むケースも多くあり、DX の地産地消を推進。



1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

伴走型DX支援 6つのパターン①

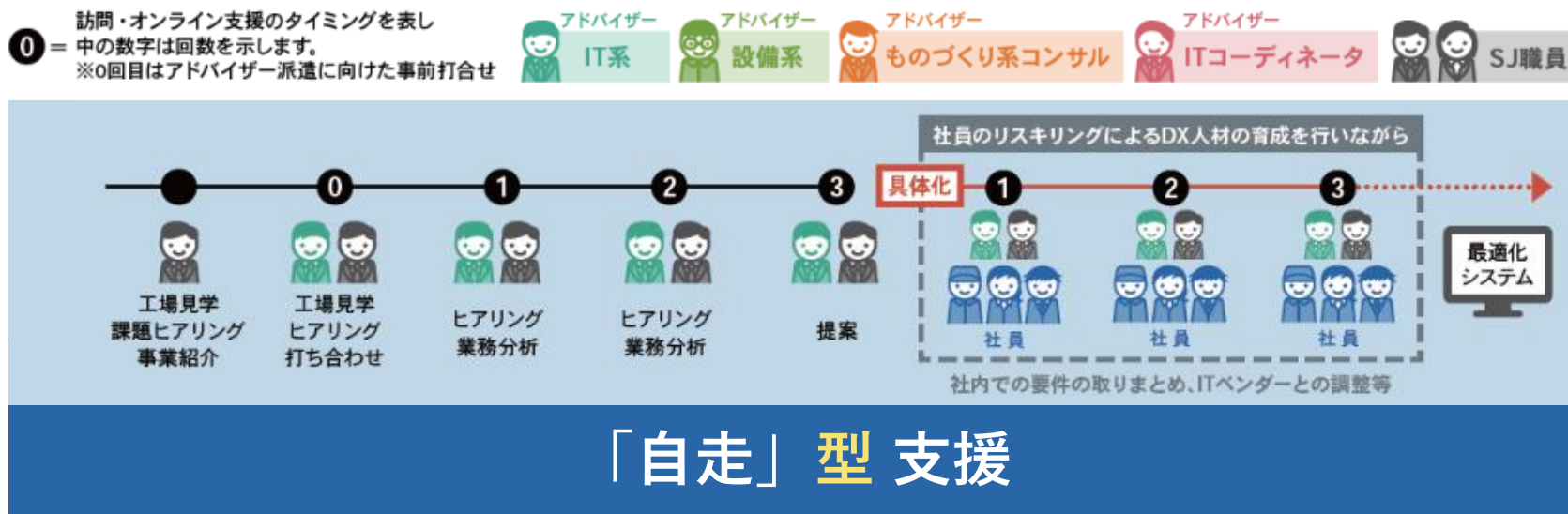
中部DX推進コミュニティに参加する産業支援機関とともに作成



複数選択肢もしくは動くものでイメージを持ってもらうなど工夫

1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

伴走型DX支援 6つのパターン②



経営者と現場、ITベンダーとのつなぎ役を育成しながら、最適化システムを導入



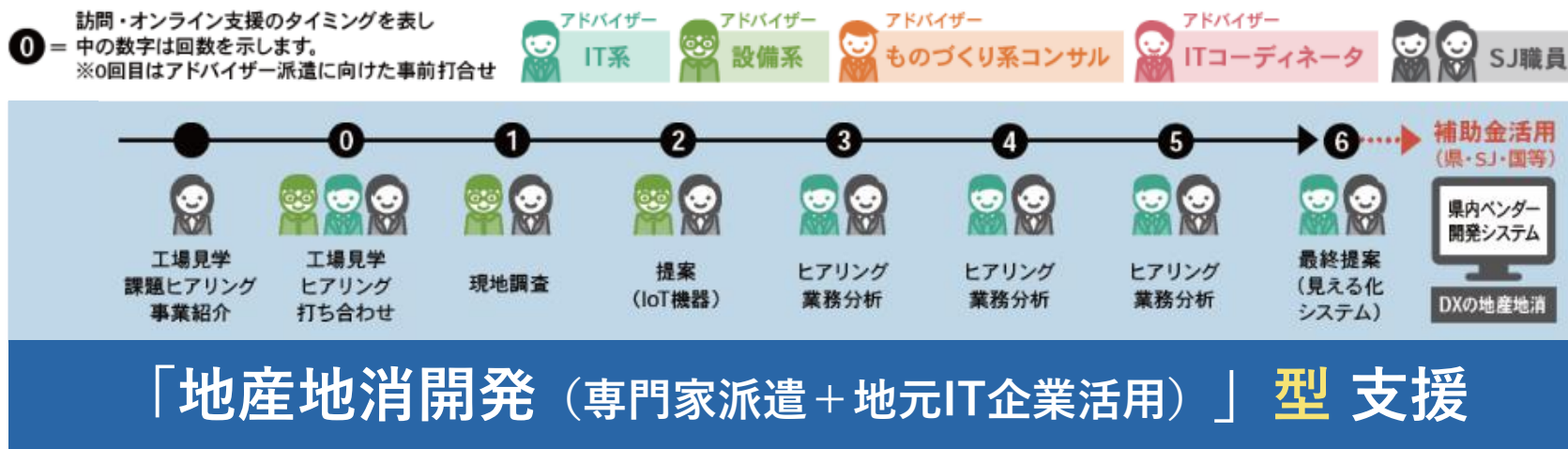
社員のリスクリングを推進する企業を応援



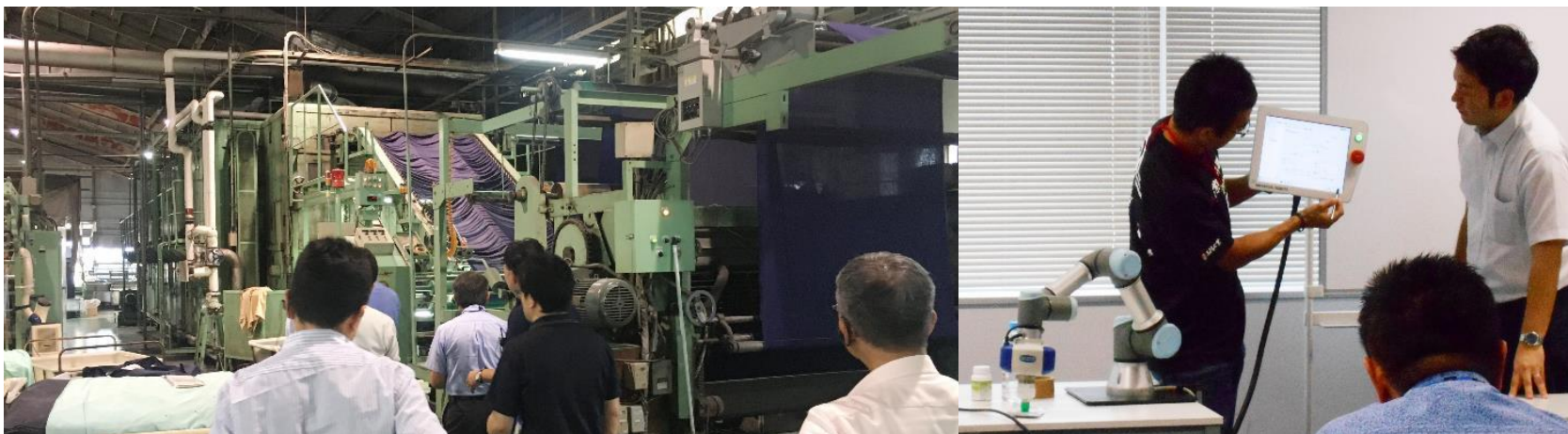
経営者、各部門の責任者、DX人材から構成される社内プロジェクトチームを応援

1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

伴走型DX支援 6つのパターン③



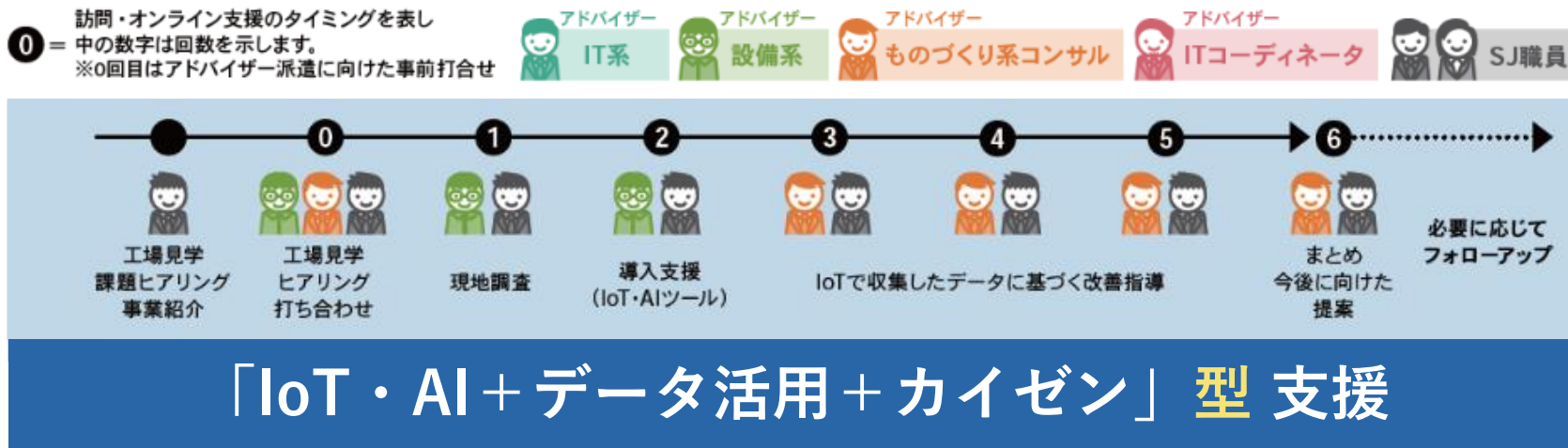
ハードとソフトの専門家が連携し、最終的には県内IT企業のシステムを導入



過去4年間に渡り実施した「スマートものづくり指導者育成スクール」の開催を通じて、専門家のコミュニティと連携しやすい環境を構築

1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

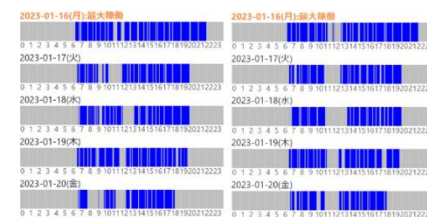
伴走型DX支援 6つのパターン④



令和2年度「IoT×カイゼンによる生産性向上事業」 (ソフトピアジャパン事業)



令和4年度「AI×カイゼンによるDX推進事業」 (経済産業省 地域DX促進活動支援事業)

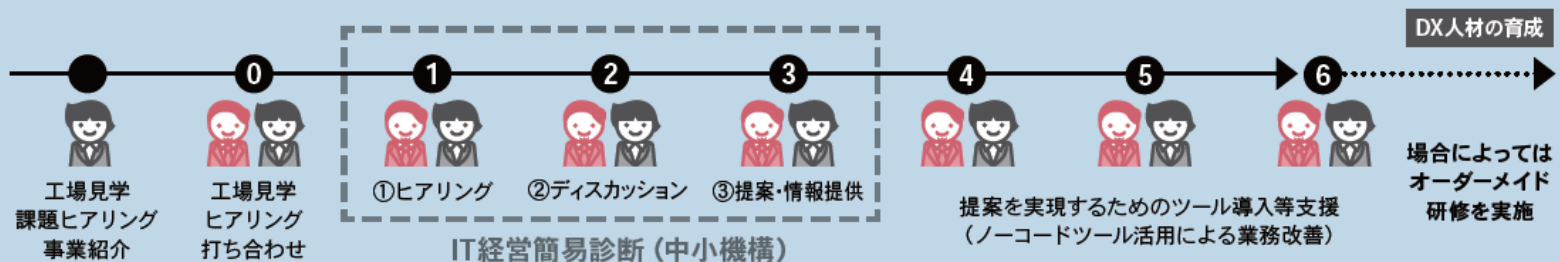


AIツールで見える化した設備稼働



伴走型DX支援 6つのパターン⑤

アドバイザー IT系 アドバイザー 設備系 アドバイザー ものづくり系コンサル アドバイザー ITコーディネータ SJ職員



「クラウド活用＋自社ノーコード開発」型支援

中・小規模の IT経営簡易診断



人間ドックのように自社のIT経営をチェック＆見える化
自社の目的・状況に合ったIT化へのきっかけ作り



**1回目
ヒアリング**

+



**2回目
提案カッ
ション**

=



**3回目
提案
情報提供**

IT経営簡易診断とは

3回の面談を通して、経営課題・業務課題を全体最適の視点から整理・見える化し、貴社にあったIT活用可能性を提案します



対象業種

※業種の1、2に該当する1～6の企業

1. 団体の経営課題・業務課題を専門チームと一緒に見える化し、IT活用可能性を特定し、制度構築・支援に当たるIT活用企業
2. 特に、製造・建設・流通・サービス業（小売・金融・IT・不動産・医療・教育・福祉・公共サービス業）について積極的に、事業を拡大

SCOTIA JAPAN

公益財団法人ソフト・エッジ・ジャパン 専門家派遣事業

オンラインで相談・取組を
実施いたします！

取組先

IT・IoT 活用で、経営力 を高め、未来につながる
『DXの推進』を応援します！

用は、
製造業

データ活用による生産ライン

用は、
飲食業

接客業務にクラウドファンクション活用

用は、
工場・小

IoT導入による設備稼働率向上

用は、
小売業

デジタル化によるマーケティング施策

Q.

経営用内にも専門家を有する皆様、 ほんのお悩みはありませんか？

工場・現場の「○○○」を見え化したい

※現場の稼働率、生産状況の可視化

データの分析・活用による経営の強化を図りたい

学習経験者をデジタル化して、

生産や営業の業務をリアルタイムに共有したい

人等々々や作業者の高齢化対策として、

大手へ自動化に取組みたい

長年の経験と知恵に頼っている対策を見直したい

IoT・AIを導入して、DXを推進したい……

※IoT・AIの導入には専門知識・専門人材が必要

スマート 応援隊

専門家と財団職員が、解決まで伴走します！

ソフトビジネス職員によるアナログ支

援隊

※現場の稼働率、生産状況の可視化

※現場の稼働率、生産状況の可視化

スマー・経営アドバイザーの派遣

支援

※現場の稼働率、生産状況の可視化

※現場の稼働率、生産状況の可視化

お手頃な費用で課題の解決

- ・ 何社もITベンダーによる見えないコスト増大を防止
- ・ データの一元管理・連携、共通の情報基盤を構築
- ・ IoT・AI活用による業務効率・生産性向上
- ・ 知識・経験豊富な専門家・専門人材の派遣

公益財団法人ソフト・エッジ・ジャパン



SOFTOPIA JAPAN
校単県内企業限定
オーダーメイド実践研修



・社内のデジタル人材を育成したいが、どう進めたらよいか分からない…
 ・社内の課題・実情にあった内容の研修を受講したい…
 ・社内のPC・環境、また実際のデータで研修を受講したい…





ご相談、お話を
お伺いでき！

研修・日程が
決まります！

社内の強み・データ
を用いた、実践研修が可能です！



オーダーメイド実践研修とは・・・

（研修内容・実施（研修の日程や実施したい人材や研修のテーマ）や研修の日の曜日に合わせて実施する）
 は研修担当者や研修希望者です。他社の研修や作成した人材研修とプログラミング系に、研修内容の得意な
 を行います。また研修の希望ではあります。自社の成果、自社のデータを用いた実践的な研修も可能です。
 研修・施設・設備等では研修の上昇します。お気軽にご相談ください。

研修実施の流れ

STEP 01	STEP 02	STEP 03	STEP 04	STEP 05	STEP 06
研修希望 の相談	研修とプログラミング	研修メニュー提案	研修内容 提案書の発行	研修希望の お返事	研修の実施
					

【お問い合わせ先】
 公益財団法人ソフトピアジャパン DX 推進推進事業人材育成推進 研修推進
 〒202-8585 東京都文京区湯島4-2-1 湯島ビル 5階
 研修推進部 TEL03-67-1166 FAX: 03-67-1168
 Email:training@softpia.jp 受付時間 月・火・水・木・金 10:00～17:00（土・日・祭日休み）

お申し込みはこちら



1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

伴走型DX支援 6つのパターン⑥

0 = 訪問・オンライン支援のタイミングを表し
中の数字は回数を示します。
※0回目はアドバイザー派遣に向けた事前打合せ

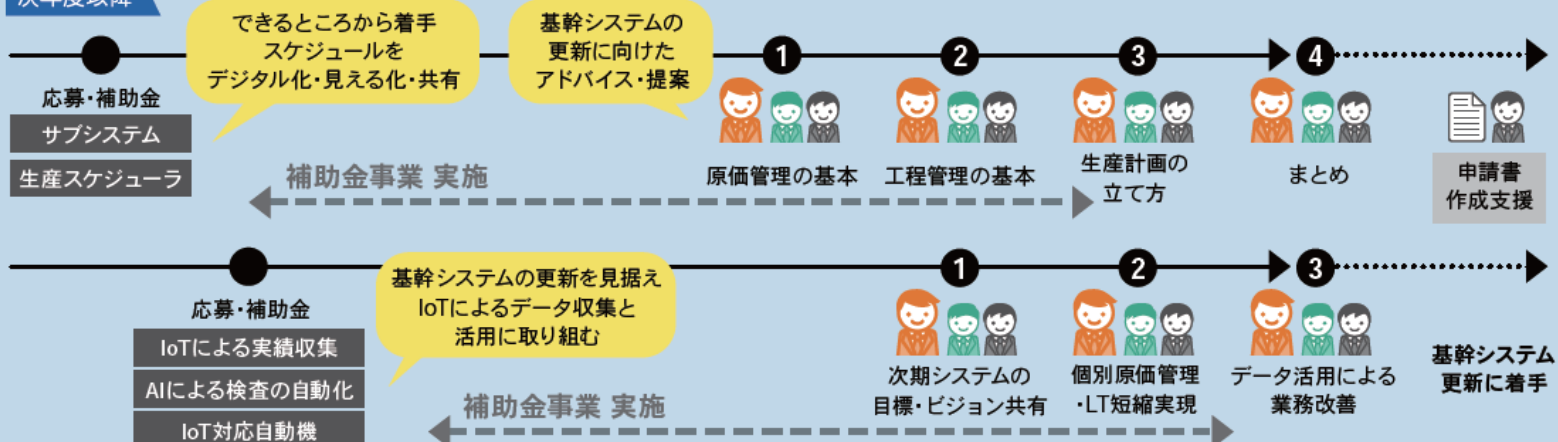
アドバイザー IT系 アドバイザー 設備系 アドバイザー ものづくり系コンサル アドバイザー ITコーディネータ SJ職員

複数年度に渡る 伴走型支援（以下は相談内容が「基幹システムの更新」の場合を例にしたもの）

初年度



次年度以降



「複数年」型 支援

企業、支援チームであるべき姿を共有し、段階的にシステム導入

1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

DX支援事例① VIVエンジニアリング株式会社

Case
16

農業機械部品製造他
VIVエンジニアリング
株式会社

現場作業改善 工程管理 在庫管理 品質確保 業務プロセス効率化 技能継承 脱属人化 経営改善 新商品・サービス創出

リモートでの品質&生産管理、テレワークの推進など DXによるグローバル生産体制で競争力強化!

これで解決!



- Point.1** 中国と日本での検査を遠隔モニタリングし、品質改善&コスト削減!
- Point.2** 最新で正確な製品基本情報をリアルタイムに共有し、利益率が向上!
- Point.3** テレワークを積極的に推進し、生産・営業体制を維持・強化!

課題
はココ!

- 部品の製造する中国工場での検査精度が低いため、組立・出荷等を行う日本でも受入検査が必須であり、非効率で膨大なコストが発生。また、検査がデジタル化されていないため、不良や異常の早期発見やデータに基づく改善が不十分。
- 図面など製品の基本情報は紙ベースで各拠点が管理。最新のものを共有できていないため、ミスや確認作業が発生。また、拠点でしか確認できない情報が多いため、出社が前提の体制になっている。
- 条件不利地域であるため、品質管理責任者を新規で採用することは困難であり、高齢専任者に依存するリスクの高い体制である。また、間接業務の担当者は子育て中であるなど緊急事態等に業務停滞のリスクもある。また、全国に取引先があるが、営業担当者は岐阜支社を拠点に活動する必要がある。



▲新規採用が困難な条件不利地域に立地する岐阜支社（事務所・倉庫・検査・組立等のスペースがある）

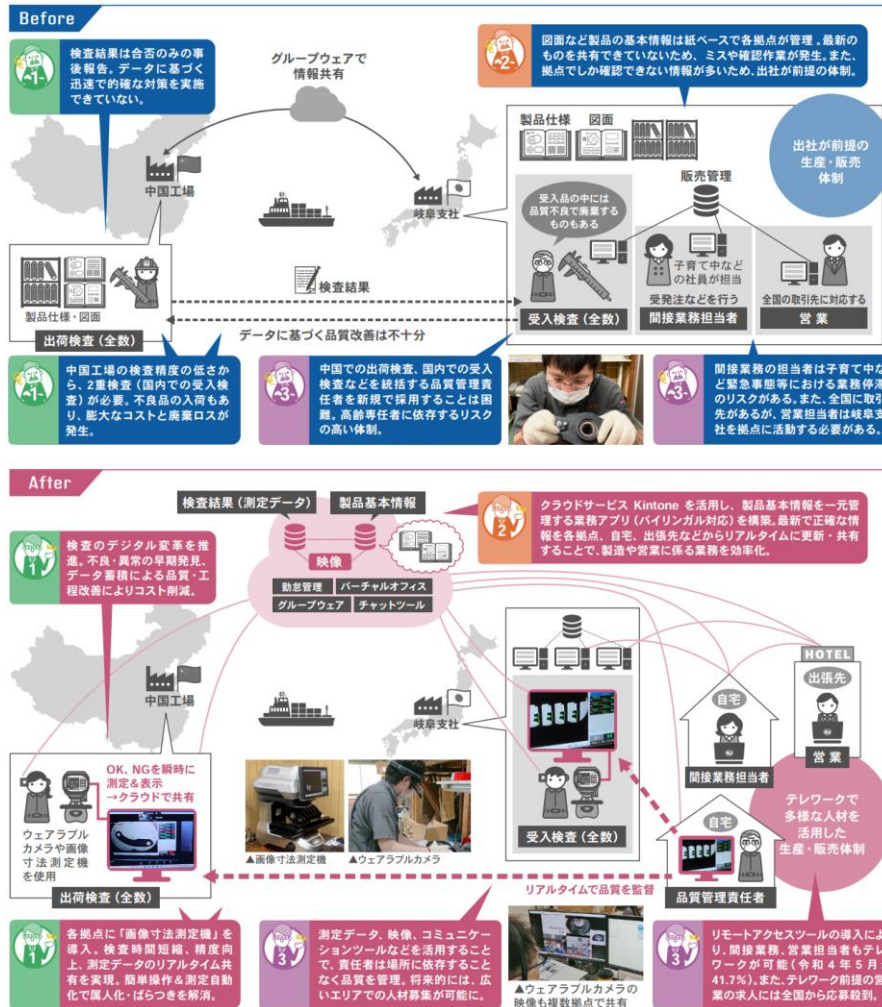


解決の
ポイントは
ココ!

- 日本と中国の拠点に「画像測定機」を導入。測定データをリアルタイムに共有することで品質管理責任者によるリモート・モニタリングを実現。不良・異常の早期発見。データ蓄積による品質・工程改善によりコストが削減。
- クラウドで製品基本情報を一元管理できる業務アプリ（バイリンガル対応）を構築。各拠点、テレワーク場所などから、最新で正確な情報をリアルタイムに更新・共有することで、ミスを削減し、品質・生産性・利益率等が向上。
- 検査に関するデータ・映像、製品・製造に関するデータなどをクラウドで共有したり、リモートアクセスツールを導入することで、場所に依存しない働き方へ改革。広く求人活動を展開できるようになり、生産・営業体制を強化。



▲主力製品である農業機械や建設機械の部品
樹脂製プーリー（左）と転輪・クローラー（右）



1. 個社支援（伴走型による中小企業へのDX支援）

DX支援事例② 株式会社艶金

CASE 12

染色加工
株式会社 艶金

現場の見える化、熟練者によるスケジュール作成・色検査等を
IoTとAIで省人化・自動化!

これで解決!

Point.1 レシピと生産スケジュールを効率よく作成&見える化・共有!

Point.2 IoTで正確な作業時間を自動収集+カイゼン活動

Point.3 AIを活用した色検査の省人化・熟練者の技術伝承

課題はココ!

- システム間の連携が悪く、手書き・手入力が多いため、染色レシピの作成に時間がかかる。また、レシピをもとに熟練者が染色スケジュールを手書きで作成しているため、見える化・共有がされていない。
- 完了時に加工伝票のバーコードを読み取る工程が少なく、現場以外では進捗がつかめない。また、染色工程では、仕掛在庫の滞留に加え、バーコード処理が手動のため、正確な時間が把握できない。
- 現在の染色システムは染色面1点のみの測色・マッチングであるため、中間検査時に熟練者が目視で色見本と比較し合否を判定。判断基準が属人化するとともに、現物や紙ベースでの記録に依存。



▲見える化・共有されるようになった染色工程のスケジュール

解決のポイントはココ!

- システム連携によりレシピ作成時間を短縮。また、スケジュールの活用により、約50台の染色機の計画作成を効率化すると同時に、負荷や状況を見える化。事務所、他工程でも共有することで、生産性が向上。
- 電波を発するビーコンを加工伝票に取り付け、受信機を指圖書の保管棚に設置することで、進捗と時間を自動収集。染色工程では、染色機投入から検査完了までの正確な時間からカイゼン活動を実施。
- 色検査にAIシステムを導入。カメラで撮影した面を構成する全点を色の3要素で空間上にプロットし、その分布の比較から合否を自動判定。熟練者の判断基準を学習させ精度向上に取り組んでいる。

Before

1 システムの連携が悪く、レシピ作成に時間がかかる

2 染色機投入前に仕掛在庫が滞留するため、中間検査も含め、正確な染色に掛かる時間がわからない。そのため、計画との比較やカイゼン活動への活用などができない。

3 現在のシステムでは、染色した面の中の1点のみの測色、サンプルとのデータマッチングであり、精度に課題がある。そのため、熟練者が目視で色見本と面と比較し、検査を行う必要がある。

After

1 データ連携により効率化し、レシピ作成時間を短縮

2 IoTを活用し、正確な染色時間を自動収集し、計画との差異を比較・分析することで、カイゼン活動を実施。

3 カメラで撮影した面を構成する全点を色の3要素で空間上にプロットし、その分布の比較から合否を自動判定できるAIシステムを導入。精度向上のため、熟練者の判断基準を学習させている。

1 システム連携によりレシピ作成時間を短縮。また、スケジュールの活用により、約50台の染色機の計画作成を効率化すると同時に、負荷や状況を見える化。事務所、他工程でも共有することで、生産性が向上。

2 電波を発するビーコンを加工伝票に取り付け、受信機を指圖書の保管棚に設置することで、進捗と時間を自動収集。染色工程では、染色機投入から検査完了までの正確な時間からカイゼン活動を実施。

3 色検査にAIシステムを導入。カメラで撮影した面を構成する全点を色の3要素で空間上にプロットし、その分布の比較から合否を自動判定。熟練者の判断基準を学習させ精度向上に取り組んでいる。

1 染色システムが導いた時間をもとにスケジュール、設備ごとの負荷とともに状況を見える化。

2 染色工程で指圖書を保管する棚に受信機を取り付け、ビーコンの電波を受信することで着手・完了を把握。今後、受信機を増設し、工程進捗と時間を収集予定。

3 染色工程の計画と進捗をリアルタイムに把握。迅速な納期回答、コスト削減を実現

3. プラットフォーム構築・活用支援

■ 産・金・官によるDX支援

2. 面的支援

■ グループや業界に対するDX支援

1. 個社支援

■ 伴走型による中小企業へのDX支援



2. 面的支援（グループや業界に対するDX支援）

岐阜県DX推進コンソーシアム

県内企業等のDXの実現を推進する為、情報や人材、資金の不足等によりDXが進んでいない県内企業を対象に DXの実現を支援し、生産性の向上・品質の確保・付加価値の高い商品・サービスの開発等につなげる。

・ 設立：令和5年4月1日 ・ 理事長：松島桂樹（ソフトピアジャパン理事長） ・ 事務局：公益財団法人ソフトピアジャパン

主な活動

【普及啓発事業】

- 1 DXに関する講演会・セミナー、研修会等の開催
- 2 先進事例調査（企業・工場視察）
- 3 研究会等会員間の連携やマッチングの支援
- 4 広報事業（各種情報提供）

【活動支援事業】

- A ワーキンググループ活動の支援
B ワーキンググループが行う研究事業・実証事業の助成

<会員の種類>

一般会員： 法人、個人等
団体会員： 業界団体・組合等
学会会員： 試験研究機関、教育機関
行政会員： 行政機関

<会費> 年額10,000円(一般会員のみ)

<ワーキンググループ>

コンソーシアムの複数の一般会員等で構成される共通の課題解決のための勉強会、研究事業、実証事業の遂行を目的とするグループ。
（登録申請が必要）

岐阜県DX推進コンソーシアム

【普及・啓発】公財ソフトピアジャパン・大学・試験研究機関等と連携したセミナー・研修会等を実施

①セミナー・ワークショップ
(共催含)

②先進事例調査
(企業見学)

③成果発表会
(マッチング・県内への横展開)

④各種研究会
(DX推進要因・インボイス)

⑤DX関連情報提供
(HP,メールニュース) など

団体 企業
学術 行政

会員

【A ワーキンググループ(WG)支援】

・ 勉強会、現場視察など

WG 1 幹事企業

WG 2 幹事企業

WG 3 幹事企業

研究・実証

【B ワーキンググループ(WG)の研究・実証プロジェクトへの助成】

社会課題の解決・事業再構築、IoT活用の実証事業へ対象事業費の1/2・最大500万から1000万を補助

研究・実証テーマ1 幹事企業

研究・実証テーマ2 幹事企業

研究・実証テーマ3 幹事企業

(公財) ソフトピアジャパン

⑦セミナー・講演会、勉強会

⑥スマート経営応援隊

⑧DX人材育成関連研修

相談対応、DX関連情報の提供、講師等の情報の提供、人材育成研修、WS開催、専門職員・専門家の派遣

補助

支援

会員向けサービス

- ・ ①会員向けセミナー・講演会・勉強会
- ・ ②先進事例調査(企業見学)
- ・ ③成果報告会：研究・実証への補助事業の成果を報告
- ・ ④【新規】DX推進要因・デジタルインボイス等の研究会の開催
- ・ ⑤IoT関連情報提供
- ・ A WG支援：WGが主体で実施する取組への支援（協力・後援）等
- ・ B WGの研究・実証事業への補助：コンソーシアムが募集・助成。利用者負担1/2・大学10/10
- ・ C デジタルインボイスを活用した業務効率化に取り組む経費の補助：コンソーシアムが募集・助成。10/10補助。

県内企業向けサービス

- ・ ⑥DX推進に関する相談対応：公財)ソフトピアジャパン（スマート経営応援隊）とともに対応。
- ・ ⑦デジタル化・デジタル技術に関するセミナー・講演会・勉強会の開催：公財ソフトピアジャパンが実施。
- ・ ⑧DX関連研修の開催：公財ソフトピアジャパンが実施。

2. 面的支援（グループや業界に対するDX支援）

岐阜県DX推進コンソーシアム ワーキンググループ事業費補助金

DXを推進するための費用を事業費の2分の1以内、最大1,000万円まで補助します
(学術機関への支払い最大250万円(10/10)を上乗せ可)

事業の内容

■事業の目的・概要

岐阜県DX推進コンソーシアム（仮称）（以下「コンソーシアム」）に加入した企業等で構成されるワーキンググループ（以下「WG」）の実証・研究開発事業に対し、経費を助成します。

■条件（対象者、対象行為等）

(1) 対象者

ワーキンググループ（岐阜県DX推進コンソーシアム設置要綱第17条）

【WGの要件】

- 岐阜県DX推進コンソーシアムの複数の会員で構成されるワーキンググループ
- ワーキンググループ構成員には一般会員は2者以上含むこと
- 幹事企業は、県内に本社、本店等を有する会員であること
注意）申請時にはワーキンググループが設置・承認されている必要があります。

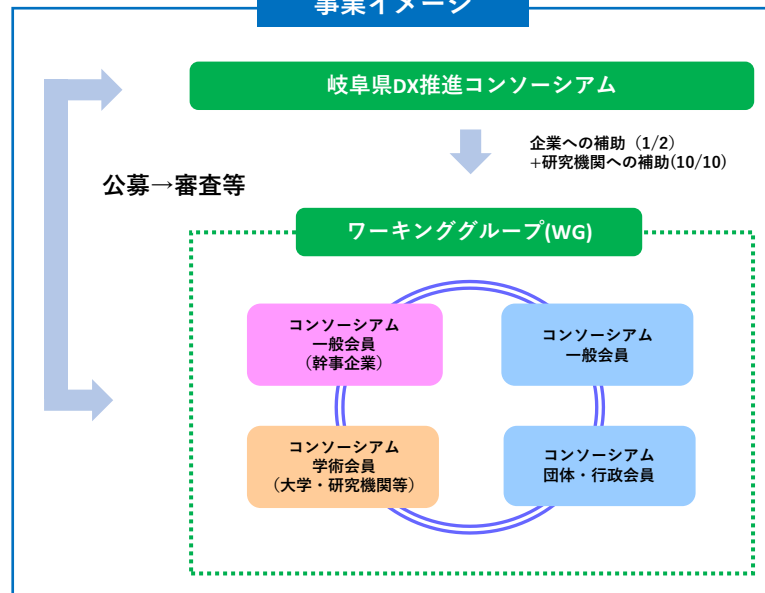
(2) 対象行為・補助率等

事業	対象行為等	補助率	補助 限度額等	採択件 数
DX推進事業	デジタル技術を活用して、社会的課題を解決する取り組み又は既存事業等を再構築する取り組み等で、効果等の検証を含む事業	1/2	(1件あたりの補助限度額) 1,000万円	4件 程度
	大学等研究機関に調査、研究、試作等を依頼する費用を認める	10/10	(1件あたりの補助限度額) 250万円	
IoT・デジタル活用事業	デジタル技術を活用して、業界や複数企業の生産性向上（収益機会増加、コスト削減、労働環境改善）等を目的とする取り組みで、効果の検証を含む事業等	1/2	(1件あたりの補助限度額) 500万円	7件 程度

(3) 補助対象経費

活動費：人件費・謝金・旅費・備品費・消耗品費・賃借料等
外注費：外注費
調査連携費：WGに含まれる大学等の研究機関に支払う経費

事業イメージ



募集開始	令和5年3月1日（水）
公募締切	令和5年5月8日（月）
申請書受付期間	令和5年4月24日（月）から5月8日（月）
採択結果公表	令和5年5月25日
事業期間	採択日から令和6年2月末日まで
成果報告会	令和6年3月14日（木）

令和5年度はDX推進事業4件・IoT・デジタル活用事業9件 採択

2. 面的支援（グループや業界に対するDX支援）

DX推進事例 AI活用支援事業

CASE
10

株式会社
イマオコーポレーション
福寿工業株式会社

現場作業改善 工程管理 在庫管理 品質確保 業務プロセス効率化 技能継承 脱属人化 経営改善 新商品・サービス創出

第2回 産学官連携による製造業向けAI活用ワーキング

利用者目線の
取り組みで **実運用の気運を醸成**



10分で
まるわかり！
解説動画

※第1回は事例06にて

	第1回 AI活用ワーキング	第2回 AI活用ワーキング
目的	AIとは何か、何ができるのかを体験的に学び、AIに関する知識を習得する	第1回と同様
対象	撮像による品質検査	課題解決（対象を限定せず）
講師	ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社	岐阜工業高等専門学校 柴田 良一教授 リコーエレクトロニクス株式会社 日比 達也氏
実施体制	岐阜県可児工業団地協同組合 ソフトピアジャパン	岐阜県工業会、岐阜県産業技術総合センター ソフトピアジャパン
期間	3日間	・AI講演会（令和元年12月2日） ・AIツールハンズオン（12月10日） ・上記受講の上、AI活用ワーキング3日間
参加企業	6社	2社（AI活用ワーキング参加企業）
AIツール	Sony ELFE	Sony Neural Network Console(NNC)
ツールの特徴	① 画像認識に特化したAIツール ② 少ないデータでも最適な画像認識AIの構築が可能 ③ プログラミングの知識を必要とせずAI構築を実現	① プログラミング不要でニューラルネットワークの効率的な編集・構築が可能 ② 効果的な構築を提案する構築自動探索機能 ③ 集中管理により効率的に比較検討が可能
現場への適用	クラウド接続とELFEのライセンス契約が必要	SonyのAIチップ（Spresense）によりハードウェアへの組み込みが可能
成果	●講義時間、データ収集に関する理解度、AI活用に 関する理解度のいずれも高評価 ●1社は具体的に、今回の成果を元に、自社の検品 システムへの組み込みの検討を開始	●第1回と同様に、高評価 ●1社は、今回得た知識をもとに次年度に具体的に 自社の業務へ展開予定



▲ 対象の撮像に関する指導の様子



▲ AIツールによる学習の様子

CASE
14

県内製造業6社
イマオコーポレーション
中日本カプセル
コダマ樹脂工業
ピーアイシステム
ミズタニ/リブレ工業
アジ精密

現場作業改善 工程管理 在庫管理 品質確保 業務プロセス効率化 技能継承 脱属人化 経営改善 新商品・サービス創出

令和2年度 AI活用支援事業の取り組み

ライティング×AIで検品作業自動化

これで解決！



Point.1 AIによる検品業務自動化の学習・体験

Point.2 自社のワークを用いて集中的に検証

Point.3 撮像画像の更なる活用



AI活用支援事業は、AIに関心のある企業に対して、具体的にAIを活用することで、AIとは何か、何ができるのかを体験的に学ぶことができる事業で、令和元年度から継続して実施している（Case 6 & 10）。

初年度に実施した際に挙げられた課題として、「不具合の状態によりその状態の撮像が難しく、AI育成のために必要な画像が集めることができず、結果的にAIの有効性を検証できなかった」というものがあった。

そこで、令和2年度は撮像・ライティング手法に長けた講師を招き、AIに関する基本的な知識や撮像技術、撮像の対象に適した撮影機材・撮像方法について学び、AIにとって有効な画像を確実に収集したうえで、AIによる自動判定が行えるかどうかを検証することを取り組み課題として設定した。
（2期に分け、各期3社、計6社が参加）



▲ ライティング技術について座学で習得



座学 ● 外観検査に利用できる画像を撮影するための撮像手法、ライティング技術の学習
● 外観検査AIの操作方法体験

個別検証 ● 自社製品のOK品、NG品をそれぞれ一定個数収集
● 自社製品を持ち寄り、撮像およびAI構築
● 構築したAIを用いた自動判定の検証

成果発表 ● 個別検証で得られた検証結果と知見を持ち回りで発表（オンラインで実施）



▲ 自社製品のNG品の特徴を学習したAIで判定できるか検証する

3. プラットフォーム構築・活用支援

■ 産・金・官によるDX支援

2. 面的支援

■ グループや業界に対するDX支援

1. 個社支援

■ 伴走型による中小企業へのDX支援



WEB-EDIの取組み（～2022年度）

- 株式会社デリカサイトは、食品製造販売企業。
- 毎日、70店舗からの食材発注を受け取り、150社の取引先に対して4,000アイテムの発注を、FAX、電話で実施。再入力、チェックや修正など手数と人員がかかり、バックオフィス業務が大きな負担となっていた。
- このため、WEB-EDIシステム（銀行のインターネットバンキングの振込を利用せず、WEB-EDIシステムで直接振込を実施）を構築し、作業工程を大幅に削減。

デジタルインボイスの取組み（2023年度～）

- これまで構築した、WEB-EDIの仕組みをベースに、デジタルインボイスを活用し、WEB-EDIを利用していない企業を含めた県内全ての中小企業がバックオフィス業務を改善する仕組みを構築することになった。

3. プラットフォーム構築・活用支援（産・金・官によるDX支援）

岐阜県デジタルインボイス研究会の活動

メンバー

座長

岐阜県DX推進コンソーシアム理事長 松島桂樹

委員

岐阜県商工会議所連合会推薦
岐阜県商工会議所 中小企業相談所長 鬼頭貴士

岐阜県商工会連合会推薦
岐阜県商工会連合会 広域推進課 課長 森幸雄

岐阜県中小企業団体中央会推薦
岐阜県中小企業団体中央会 専務理事 川本敏

岐阜県情報産業協会推薦
株式会社インフォアーム DX事業部執行役員副事業部長 増田 信政

名古屋税理士会岐阜県支部連合会推薦
税理士法人長尾会計 代表社員 長尾博

株式会社十六銀行推薦
株式会社十六銀行 DX部 課長 小林雅樹

株式会社大垣共立銀行推薦
株式会社大垣共立銀行 IT統轄部 課長 箕浦信

アドバイザー

デジタル庁 国民向けサービスグループ 企画官 加藤 博之

経済産業省中部経済産業局 地域経済部情報政策室 室長補佐 江間 文彦

岐阜県 商工労働部 産業デジタル推進課長 板津浩司

オブザーバー

一般社団法人全国銀行資金決済ネットワーク 企画部長 千葉勇一

デジタルインボイス推進協議会 / 弥生株式会社 担当マネージャー 岡部 毅

株式会社野村総合研究所 フェロー 梅屋真一郎

デジタルインボイス連携基盤（岐阜モデル）構築・実証事業補助金補助事業者

株式会社ミライコミュニケーションネットワーク
内部監査部 マネージャー 上野 麻記子

岐阜県デジタルインボイス研究会の活動

主な実績

第1回 4月25日（火）開催

※第1回のみ、リアル開催し、マスコミに公開。NHK等で報道された。

第2回 6月20日（火）開催

セミナー（オンラインのみ） 9月12日（火）開催 82名参加

講演「デジタルインボイス先進導入国の状況について」

野村総合研究所フェロー 梅屋真一郎氏

第3回 10月31日（火）開催

第4回 2月20日（火）開催予定（最終回）

※開催後、資料等をHP上に公開

デジタルインボイス連携基盤（岐阜モデル）構築・実証事業補助金

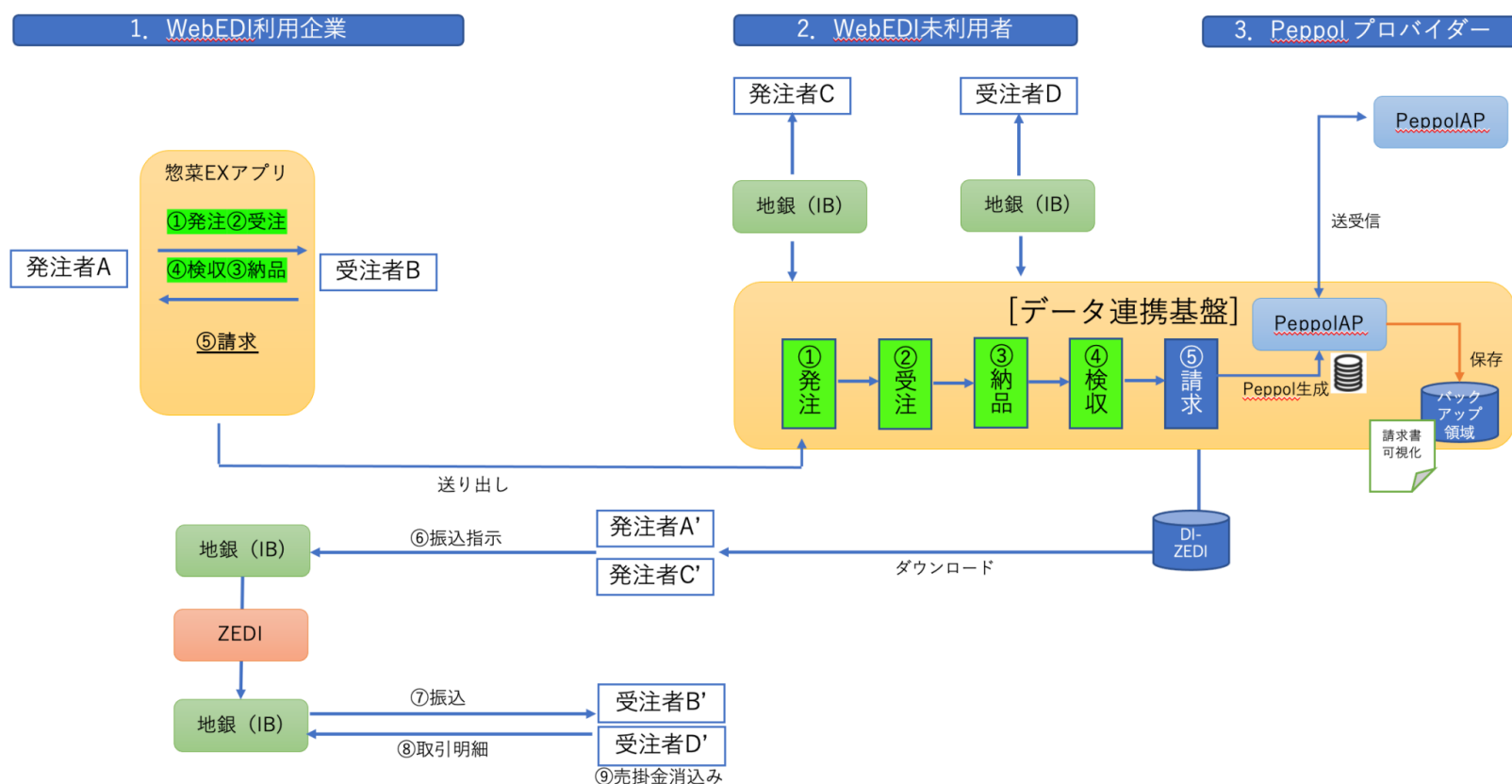
- ・ 岐阜県デジタルインボイスデータ活用推進WGに選定（4月10日）

WG構成 幹事企業 株式会社ミライコミュニケーションネットワーク
 他企業 株式会社デリカサイト、株式会社大垣共立銀行

- ・ 補助額 3,500万円（10/10）
- ・ システム構築の進捗状況については、上記研究会で報告、資料をHPで公表。

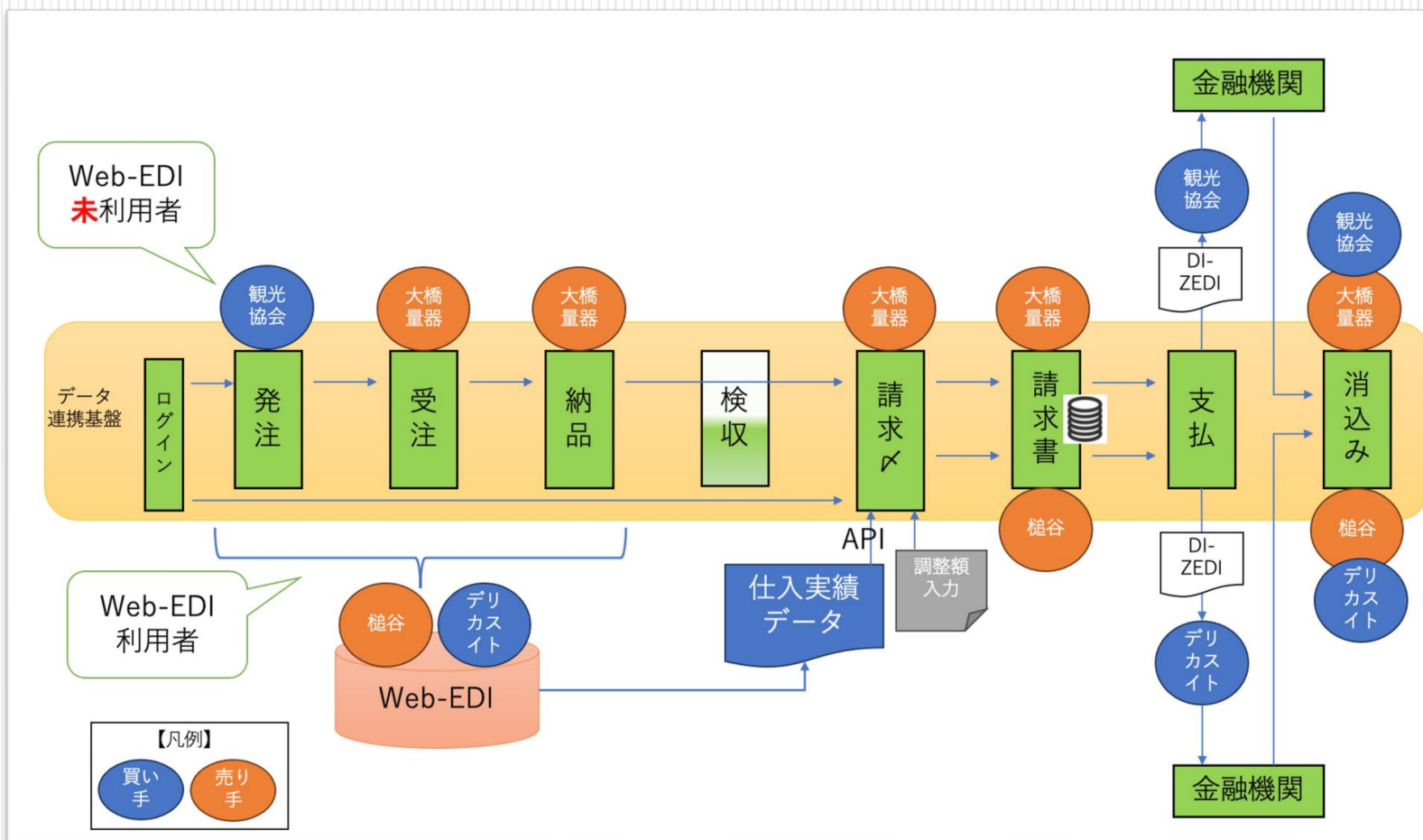
デジタルインボイス連携基盤（岐阜モデル）構築・実証事業補助金

【岐阜モデル実証事業】システムの概要（2023.10時点）



デジタルインボイス連携基盤（岐阜モデル）構築・実証事業補助金

各者が利用する機能



デジタルインボイス連携基盤（岐阜モデル）構築・実証事業補助金

- ・ 11月16日（木）に、有限会社大橋量器（升の製造：売り手）、大垣市観光協会（買い手）間他を、ダミーデータで実証実施。
- ・ 12月7日（木）に、同じ両社間で、実データで実証予定。約60％時短効果。

【実証結果】

買い手：72.7％削減（24分30秒 → 6分41秒）
売り手：53.4％削減（15分35秒 → 7分16秒）
合 計：65.2％削減（40分05秒 → 13分57秒）

- ・ 大垣共立銀行、十六銀行という順で取り組んでいる。
- ・ 県は、来年度予算に、積極的な普及啓発施策を盛り込み、現在査定中。

まとめと今後の課題

中小企業等へのDX支援の基本姿勢

DX支援人材として求められると考えられる点及び育成

課題と今後の方向性

地域内における支援機関同士の連携に関する望ましい在り方

ソフトピアジャパンの固有性・移転可能性

中小企業等へのDX支援の基本姿勢



県内中小企業の経営者との人的ネットワーク、面的支援

- ・ 県中央会経由による各種団体、産地組合との連携事業
- ・ 地域未来牽引企業、意欲的な若手経営者との定期的な懇談会
- ・ 個社支援から会社間の互助を誘起



地産地消のDX

- ・ 地元企業の課題を地元ITベンダー、地元の支援専門家が解決
- ・ 企業の需要喚起、未来に向けた投資を具現化



補助事業ごとの支援から中小企業目線での横断的支援

- ・ 単発的支援から持続的支援
- ・ プロセスに沿った支援事業の組み合わせ



広域な支援ネットワークの活用

- ・ 中部DX推進コミュニティ
- ・ 資源と情報の共有（専門家情報、ソリューション情報）

DX支援人材として求められると考えられる点及び育成



相談企業の**業務プロセス**や**課題**を整理・分析できる能力

- ・ 研修の企画、伴走型支援などを通じ、OJTで習得



初動対応から、支援のシナリオを描き、メニューを組み合わせたリ、
専門家・ITベンダーや他の支援機関など**フォーメーション**を考え、**提案**できる力

- ・ IT分野の専門性を持った職員が、時間を掛けて経験を積んできた
※ ベースには、若手・中堅職員が経営者と直接やり取りをしながら事業を推進できる機会・環境がある



課題の解決や変革に至るまで、適切な専門家など支援**フォーメーション**を
コーディネートしたり、補助金活用や改善活動などの支援も含め**伴走**できる力

- ・ 伴走型支援を繰り返し実施する中で習得
※ ベースには、課題の解決や変革に至るまで、伴走型で支援をするという方針と制度設計がある

課題と今後の方向性



伴走型DX支援のパターンの中には、特定の専門家やIT企業に偏ったものもある

- ・ バリエーションや選択肢をいかに増やしていけるか



一部の職員に特定領域が偏在し、属人化

- ・ 属人化されたスキルを標準化・デジタル化する支援DX
- ・ 再現性を高め、より発展させながら継続できるか
- ・ 中小企業への支援記録などカルテ情報の一元化

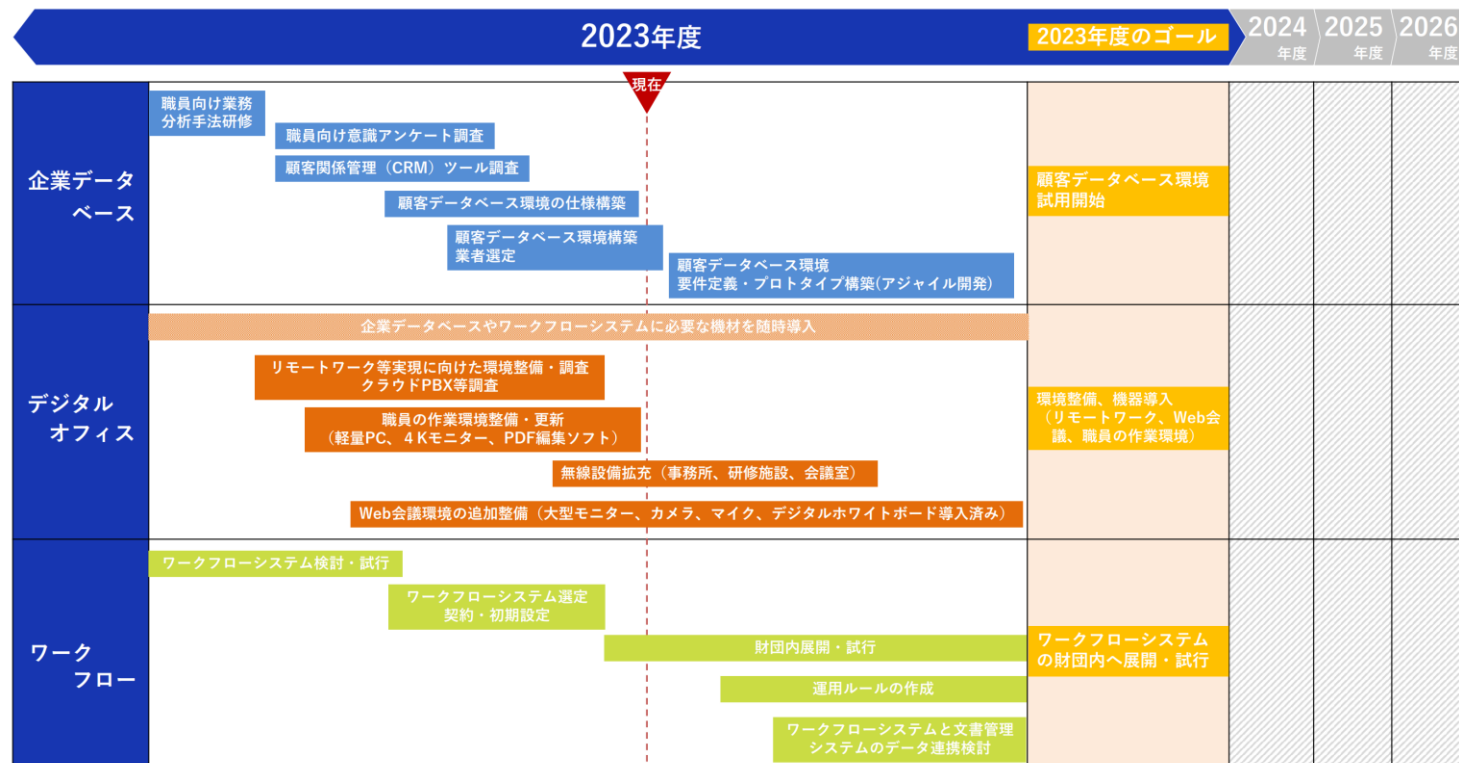


「浅く広範に」 ⇔ 「深く専門的に」 のバランス

- ・ 他の支援機関との連携

まとめと今後の課題

財団「デジタル化」推進計画



2023.10.25



デジタル化の 舞台裏

～職員が語る財団の変革～



INTERVIEW

地域内における支援機関同士の連携に関する望ましい在り方



連携ありきではなく、共通の課題認識のもとに連携

- ・ 単なる情報交換だけではなく、互いの強みを生かして支援を実施



顔の見える関係づくり

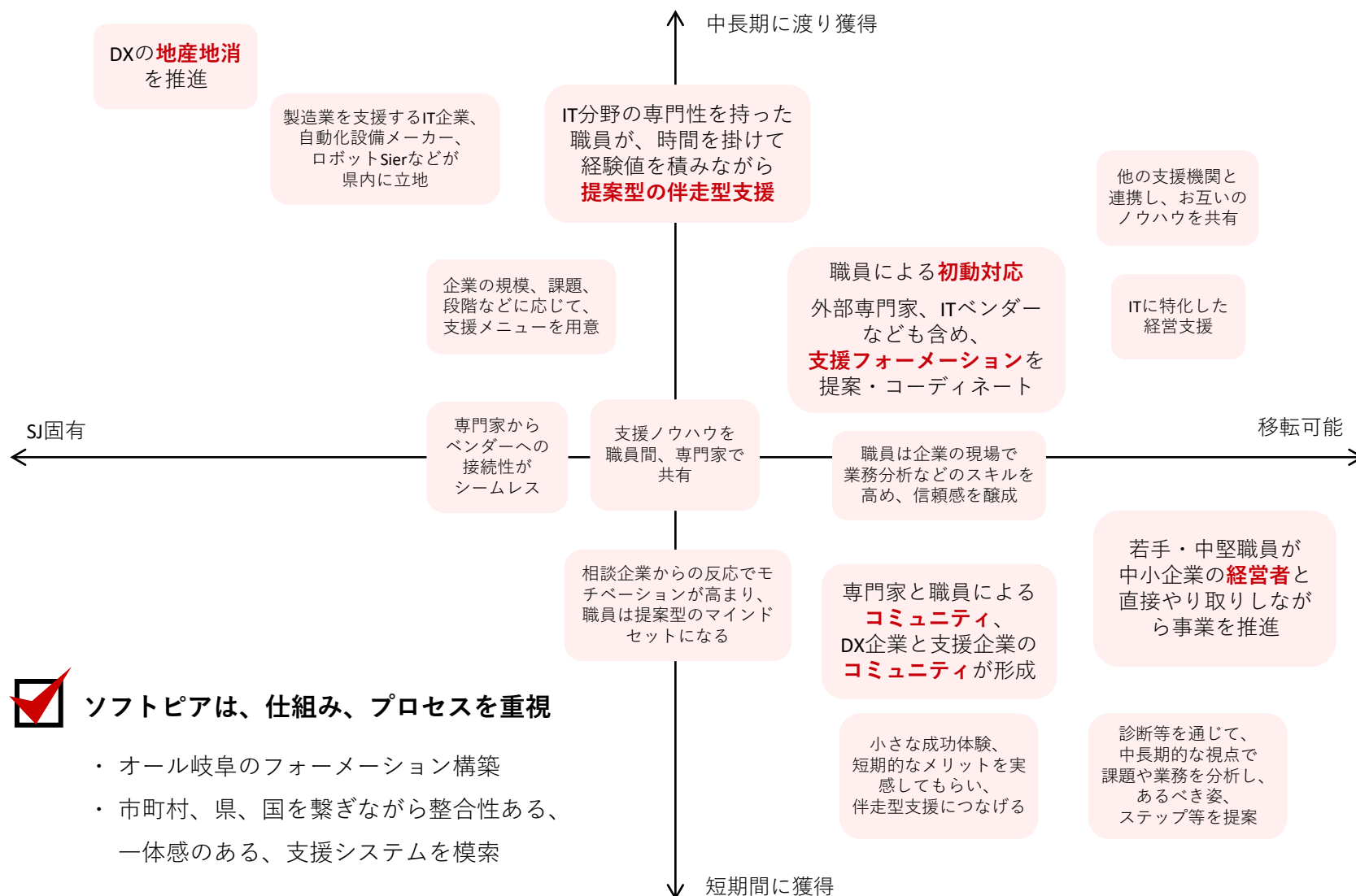
- ・ 他機関の職員と一緒に考える「DX勉強会」の開催
- ・ 専門家×他機関の職員（経営指導員）×ソフトピア職員によるDX支援



地域の特性を生かしたDX支援

- ・ 岐阜県の特性を生かした国の補助事業が、県の事業として定着・発展
- ・ 地域内にとどまらず、共通の課題、地域特性があれば、連携できるのでは

ソフトピアジャパンの固有性・移転可能性



ソフトピアは、仕組み、プロセスを重視

- ・ オール岐阜のフォーメーション構築
- ・ 市町村、県、国を繋ぎながら整合性ある、一体感のある、支援システムを模索